

植物多様性センターの「ゲンノショウコの色違い」

ゲンノショウコは薬草としてよく知られている植物で、薬効が直ちに現れることから「現の証拠」の和名が付けられました。日本薬局方にも「ゲンノショウコ末」として収められています。しかし、葉がトリカブトなどのキンポウゲ科植物と似ていて中毒事故も起きているので、薬草として採取する際は注意が必要です。花の色には変化があり、東日本では白色の花が大半ですが、西日本では紅紫色の花が多くなります。植物多様性センターの奥多摩ゾーンではどちらの花も観察することができますよ。



東京では白色の花がよく見られる。花期は7～10月。



西日本に多い紅紫色の花。花は2個ずつ付く。



葉は3～5裂して、荒い鋸歯がある。茎と葉には毛がある。



種子を飛ばした後の様子からミコシグサの別名がある。